

自然と文化豊かな長野県安曇野地域に位置し、 多様なレクリエーションニーズに対応した国営公園 ～国営アルプスあづみの公園～

～ 概 要 ～

「国営アルプスあづみの公園」は、失われつつある安曇野の田園風景を保全・復元し、いつでもその風景にふれたり、「安曇野」という地域の自然・文化を短時間で体験できる「堀金・穂高地区」と、日本を代表するアルプスの山岳景観につながる良好な自然環境を保全しながら、その自然環境を学び、体験し、参加できる「大町・松川地区」の2地区から構成された国営公園である。



■経 緯

平成2年4月 事業採択
平成2年10月 基本計画策定
平成2年11月 都市計画決定
平成16年7月 堀金・穂高地区 一部開園（約27ha）
平成21年7月 大町・松川地区 一部開園（約79ha）
平成24年1月 基本計画変更
平成25年9月 大町・松川地区 追加開園（約25ha）
平成26年4月 堀金・穂高地区 追加開園（約17ha）
平成28年6月 全園開園（353ha）

→令和2年度 事後評価完了

開園時の地元の新聞報道



■位置図



プロジェクト着手前

■諸元

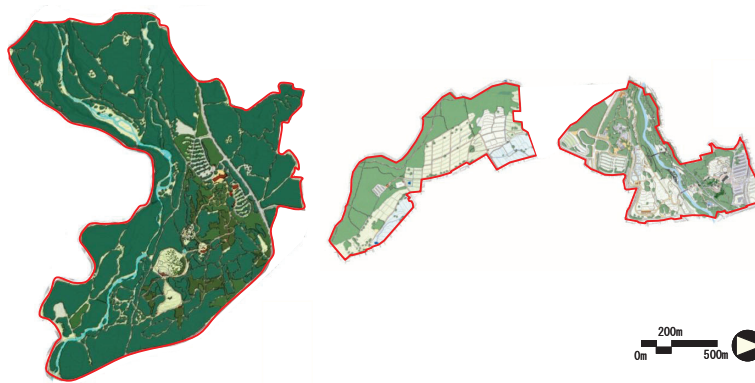
事業採択	平成2年4月	工事着手	平成10年10月
事業計画面積	353ha		
開園	平成28年6月 全園開園（353ha）		



計画平面図

大町・松川地区 計画面積255ha

堀金・穂高地区 計画面積94ha



国営アルプスあづみの公園の2地区が立地する地域一帯は、北アルプスの雄大な景観のもと、昔ながらの田園風景が残る全国的にも有数の観光地である。

また、2地区を結ぶ県道沿いには多くの美術館が立ち並び、通称「安曇野アートライン」の一部にもなっており、本プロジェクトは、豊かな自然と文化にふれられるレクリエーションエリアの一翼を担っている。



プロジェクト着手後

園内の風景

1. プロジェクトの内容と目的

国営アルプスあづみの公園は、「自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現～自然の中で感性を育む～遊・創・空間～」を理念として、表 1 の基本方針の実現を目指した整備・管理を目的として進められているプロジェクトである。

また、国営アルプスあづみの公園では、公園の整備とあわせて、図 1 に示す社会ニーズへの対応を含む「4+1」の取り組みとして、地域の自然、文化の継承と、地域活性化、防災などによる地域への寄与を図っている。

表 1 国営アルプスあづみの公園の基本方針

基本方針	(1) 自然環境の保全	生物多様性に富んだ自然環境との共存を目指した保全活動や啓発活動の推進
	(2) 広域レクリエーション	日本を代表する自然環境の中で、安らぎ創出や健康づくりにつながる楽しみを各種体験・学習プログラムを通じて提供
	(3) 景・文化の保全と創出	第一級の山岳景観と雄大な田園景観が一体となった安曇野地域の景観及びこれをはぐむ豊かな風土・文化の保全と創出への貢献
	(4) 交流・地域活性化	公園が地域滞在型観光の拠点となるとともに、園内資源を活用し、地域と連携した地域活性化への貢献
	(5) 情報発信	安曇野地域を舞台にして、豊かな自然のなかで育まれてきた風土・文化とこれからの暮らし方についての新たな発見を導く情報を発信
	(6) 参加	公園の整備・管理運営において、地域、企業、利用者など、様々な立場、多様な世代からの参加を促進
平成 2 年 国営アルプスあづみの公園基本計画検討委員会において策定（平成13、23年度改定）		



図 1 国営アルプスあづみの公園による「4+1」の取り組み

事業採択	平成２年４月	工事着手	平成１０年１０月
事業計画面積	３５３ha		
開園	平成２８年６月 全園開園（３５３ha）		

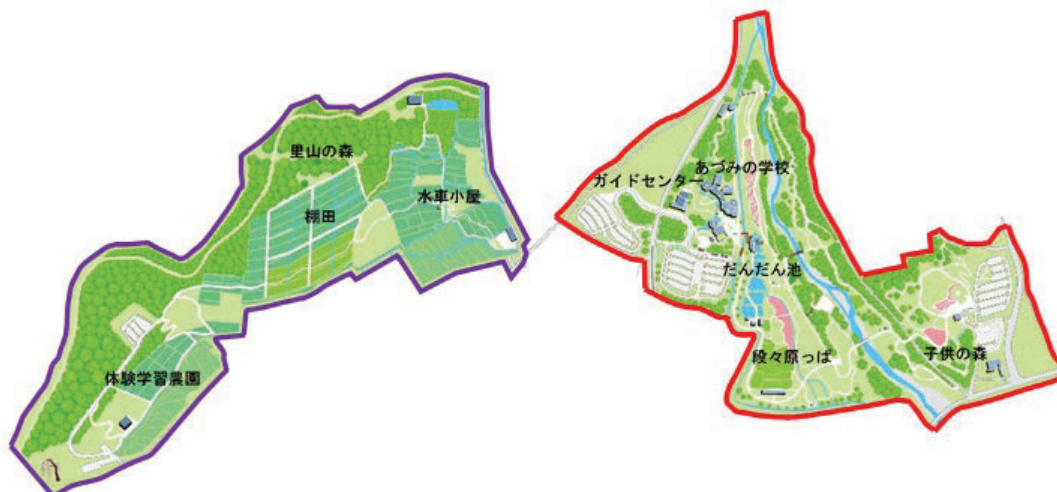
堀金・穂高地区

里山文化ゾーン

安曇野に伝わる懐かしい里山風景を再現しながら、人の生業の中で育まれてきた生き物の保全、技術・文化などの体験機会の提供を通じて、安曇野の風土の継承につなげていくゾーン

田園文化ゾーン

安曇野地域の田舎風景や常念岳を中心とするアルプスの山岳景観を楽しみながら、豊かな水と大地が育んだ自然と文化にふれることができるゾーン



大町・松川地区

自然体験ゾーン

北アルプスから流れ出る清冽な溪流やそこに育まれた森林の魅力と楽しみを満喫できるゾーン

センターゾーン

公園の入り口に位置し、豊かな自然環境に楽しみながらふれあうことができるゾーン



溪流レクリエーションゾーン

北アルプスから流れる溪流や水辺の魅力と楽しみを満喫できるゾーン

林間レクリエーションゾーン

北アルプス山麓の自然の中で様々な体験活動ができるゾーン

保全ゾーン

豊かな生き物の生息環境となっている森林を保全するゾーン

2. プロジェクトの効果

1) 種々の定量的効果

a) 入園者数の推移、公園の満足度

近年の年間入園者数は、2地区合計で50万人程度であり、定着してきたイベントの開催やニーズに対応した各種イベントの実施により、入園者数は増加傾向にある。また、地元長野県以外の首都圏・中京圏を中心とした来園者が半数近くを占め、遠方からも多く来園されており、公園の総合的な満足度は、9割以上が「満足」「まあまあ満足」と回答頂いている。

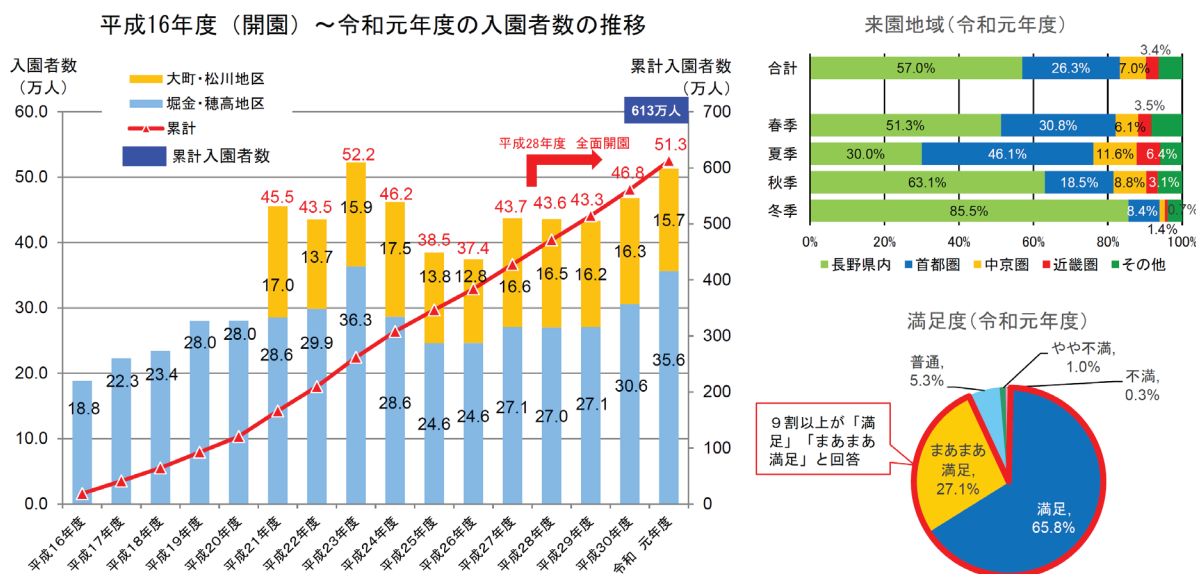


図2 入園者数の推移、公園満足度

b) プロジェクトへの投資効果

本プロジェクトの用地費、整備費および維持管理等の総費用(C(Cost))に対する投資効果を、公園供用による直接利用価値、さらに環境および防災面へ間接的にもたらされる効果として地域が受益している総便益(B(Benefit))であると想定できるため、この費用便益比(B/C)の関係を投資効果として分析した。

■プロジェクトの投資効果の分析

$$\text{費用便益比 (B/C)} = \frac{\text{供用後 50 年間の直接・間接的利用価値}}{\text{建設費 + 供用後 50 年間の維持管理費}}$$

$$= \frac{2,851 \text{ 億円}}{1,507 \text{ 億円}} = 1.89$$

$$\text{経済的内部収益率 (EIRR)} = 7.70\%$$

※建設～供用期間の総費用、総便益については、物価の変動や利率などによる社会的な貨幣価値の年変動を、社会的割引率4%として考慮（現在価値化）し、算定している。

2) その他の効果

a) 観光振興地域活性化への寄与

次世代へ安曇野の風土や文化が体験できるプログラムづくりを行い、両地区合わせて、毎年約8万人の来場者が体験プログラムに参加している。また、季節毎のイベントの実施や周辺施設との連携による大規模なイベントを開催することにより、滞在・周遊促進による地域活性化を担っている。

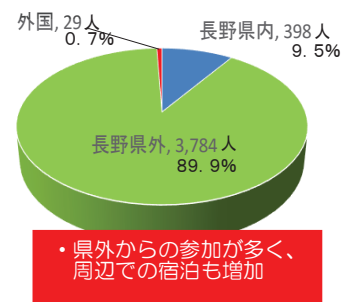
表2 体験プログラム・イベントの開催数

	体験プログラム	イベント
令和元年	277種類、77,700人	306件



写真1 体験プログラム・イベント状況

「アルプスあづみのセンチュリーライド」参加者数



b) 長寿・福祉社会への対応

バリアフリーへの対応や移動手段の確保により、山麓に位置し高低差のある公園でも楽しんでもらうとともに、木に親しみを持ちながら遊べる遊具を設置した。

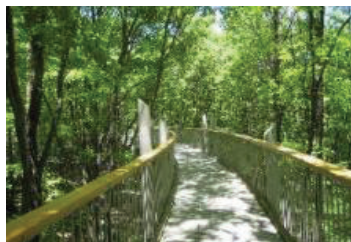


写真2 バリアフリーへの対応状況



写真3 遊具設置状況

c) 防災に関する効果

平成26年7月に、陸上自衛隊第12旅団と「災害時等の国営公園の占用に関する協定」を締結し、首都直下地震等の大規模災害発生時には指揮所や資材集積所等の拠点を公園内に設け、迅速かつ円滑な自衛隊の災害派遣活動が期待される。また、平成25年には、大町市との間で「災害時における国営アルプスあづみの公園来園中の観光客等への支援に関する協定書」を締結し、来園観光客の帰宅困難者支援が可能となった。さらに国営公園の敷地内の広いスペースを活用し防災訓練や防災体験イベントなどを行い、防災意識の向上を図っている。



写真4 帰宅困難者受入施設、防災イベント・防災訓練

3. プロジェクトの実施にあたっての特記事項

1) 自然との共生

地域文化や公園資源を活かした特色ある参加体験型プログラムを通じて、生物多様性や地域固有の環境、技能継承の効果や様々な人々の交流を生み出す効果が期待できる。また、希少な自然資源、緑環境を保全・継承するため、天蚕活動(観察会)苗木植栽体験等を行っている。

●自然や野生生物、地域文化等を活かした様々な参加体験型プログラムの実施、文化の継承・発信



写真5 稲刈り体験、馬耕の再現



写真6 天蚕活動(観察会、天蚕用苗木の植栽体験)

継続的な維持管理を行い、緑豊かな環境と地域景観、貴重な動植物の生息生育環境の魅力を向上させ、季節ごと・地区ごとに特色ある花修景(景観)の創出や効果的な情報発信に努めている。

●四季の特色を活かした魅力の発信



写真7 春のナノハナ(花修景)



写真8 夏の川遊び体験



写真9 秋のキバナコスモス（花修景）



写真10 冬のソリ遊び

2) 事業実施による動植物の育成、生息環境等への効果

本公園は、安曇野地域の里地里山環境を有しており、貴重種の生息・生育が確認されている。そのため公園内では、希少種や地域の在来種等に配慮した維持管理を行い、保護団体等と共同で観察会等を実施している。

●貴重種オオルリシジミの保護・育成

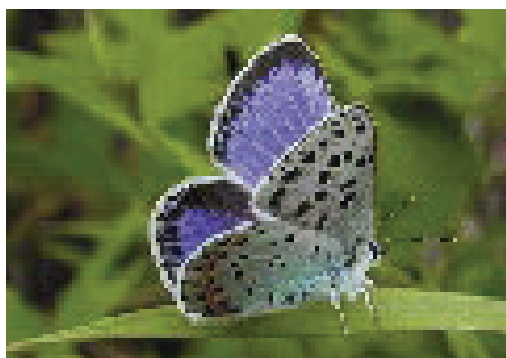


写真11 「オオルリシジミ」



写真12 観察会

●貴重種の保護・育成のための管理



写真13 野焼きの実施

オオルリシジミの保全技術の確立

- ・信州大学が公園内の調査によりオオルリシジミの天敵の1つであるメアカタマゴバチを特定
- ・天敵であるメアカタマゴバチの駆除に有効な「野焼き」を大学と共同の下、実施

自然観察会、環境学習等への利用

- ・体験プログラムにより地域の子供へオオルリシジミと触れ合える機会を提供

3) 埋蔵文化財の保全・活用

公園内で確認されている古墳や遺跡などの保護や情報発信、大学生の学習フィールドとして活用されている。

●園内にある古墳の保護、活用



写真 14 古墳の保護、大学生の研究活用（堀金・穂高地区）



写真 15 遺構（山の神遺跡）のイベント活用（大町・松川地区）

4. プロジェクトによって得られたレッスン

1) 景観保全との活用

元々の棚田地形を活かしながら、地形改変を最小限にした園路の整備や、外周柵も景観に配慮した竹柵や生け垣など、里山景観に配慮しながら、また、コストの縮減にも配慮した整備を行った。



写真 16 改変を最小限にした園路、里山景観に配慮した施設

2) 野生動物との共存

里山に位置することから多くの種類の野生動物が確認され、ツキノワグマ、サルなどの危険性を伴う大型動物の対策が必要となっている。本公園では、注意看板の設置や電気柵の設置による侵入防止、侵入時の追い払い訓練など、日常的な対策を行っている。

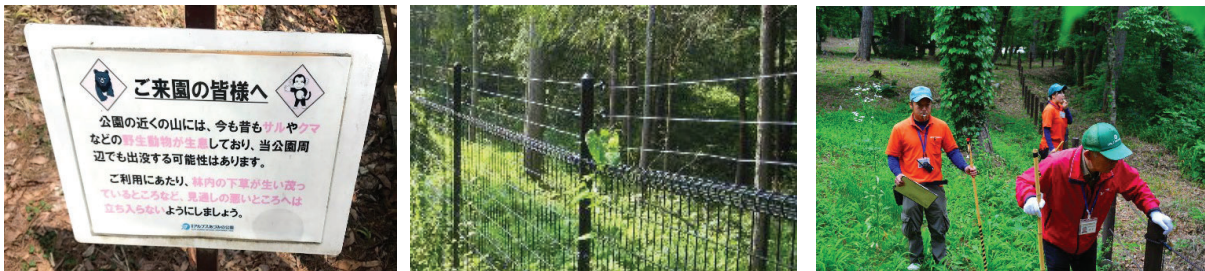


写真 17 動物対策、クマの搜索・追い出し訓練

5. 考察

国営アルプスあづみの公園の田園風景や里山風景を保全・活用し、地域との協働を通じた希少動物の生育環境の保全や農業などの伝統・文化に触れる機会の提供されることで、地域が持つ豊かで貴重な伝統等財産の継承に寄与している。また、安曇野をはじめ長野県内での周遊促進や宿泊による地域活性にも寄与できるものと考えられる。

本事業の実施により観光振興や地域活性化、都市環境改善などの効果が発現していることが確認されており、今後の事業評価及び改善措置の必要性は現時点ではないものと考えられる。

【参考資料について】

本プロジェクトの参考資料については、下記の関東地方整備局のウェブページでご参照いただけます。

参照 URL : <http://www.ktr.mlit.go.jp/shihon/shihon00000045.html>